

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1  
管理機関名 兵庫県教育委員会  
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、  
下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日(契約締結日) ～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立生野高等学校  
学校長名 福田 孝善  
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成するIKUNOモデルの開発

4 研究開発概要

生野の歴史や文化を学ぶことで地域課題を理解し、地域の観光資源を活用した地域活性化と、AIやIoTを活用した高齢者に優しいまちづくり等、地域と協働した探究学習を通じて、生野が日本の近代化を牽引したという誇り「IKUNOプライド」を醸成し、地域の担い手の育成を図る「IKUNOモデル」の研究開発を行う。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
吉田 和志	神戸女学院大学・非常勤講師	委員長
杉岡 秀紀	福知山公立大学・准教授	副委員長
千歳 誠一郎	朝来市・教育長	委員
河本 要	但馬県民局地域政策室・室長	委員
西田 利也	兵庫県教育委員会事務局・高校教育課長	委員

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也
兵庫県立生野高等学校	校長 松中 泰幸
朝来市	市長 多次 勝昭
福知山公立大学	学長 井口 和起
神戸山手大学	学長 齋藤 富雄
(株)ZMP	代表取締役社長 谷口 恒
但陽信用金庫	理事長 桑田 純一郎
全但バス株式会社	代表取締役社長 桐山 徹郎
株式会社シルバー生野	取締役社長 妹尾 高明
いくの地域自治協議会	会長 日下部 誠
奥銀谷地域自治協議会	会長 柴田 一明
NPO 法人あさご創生プロジェクト	代表 古屋敷 和也
NPO 法人いくのライブミュージアム	事務局長 松本 忍
NPO 法人日本ハンザキ研究所	理事長 岡田 純
朝来市商工会	会長 西垣 隆
生野町温泉開発株式会社	代表取締役社長 奥藤 博司
生野町観光協会	会長 桐山 徹郎
社会福祉法人いくの喜楽苑	施設長 松本 久司

## 8 カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	江上 直樹	福知山公立大学・助教	非常勤嘱託員
カリキュラム開発専門家	岡野 未希	フリーランスデザイナー	謝金
カリキュラム開発専門家	中西 雅幸	NPO 法人・代表	謝金
カリキュラム開発専門家	藤本 佳朗	但陽信用金庫・室長	謝金
カリキュラム開発専門家	松上 淳宏	プルデンシャル生命・エグゼクティブライフプランナー	謝金
地域協働学習支援員	篠原 諒太	NPO 法人・事務局長	朝来市より派遣

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

活動日程	活動内容
8月28日	生野高等学校各教室で実施された1年生個人による中間発表会に参加し、生徒の研究のプレゼンテーションを見学・助言（IKUNO検定、地域活性化等） その後、第1回協議会で各団体と生徒の協働活動の仕方を協議
10月29日	2年生探究授業中間審査会に参加し、生徒の研究のプレゼンテーションを見学・助言、 その後、第1回運営指導委員会で臨時休業終了後の学習活動について指導・助言

12月18日	第5回ゆめいくプロジェクト発表会に参加し、その後第2回協議会を開催予定であったが、コロナ禍で外部からの来校なしで実施したため、協議会は後日に延期
1月28日	第2回協議会をオンラインで実施し、事前に送付した12月18日の発表会の動画(限定公開)の内容および今年度の取組の指導・助言
2月9日	第2回但馬地区高校生フォーラムに出席 第2回但馬地区高校生フォーラムの実施内容について指導・助言 今年度の取組について協議し、来年度の活動方針を決定

## (2) 実績の説明

- ・コンソーシアム及び運営指導委員会に担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。
- ・コロナ禍における、オンラインでの実施における指導・助言等を行った。
- ・国費に加え、県事業「県立高校特色づくり推進事業（インスパイア・ハイスクール）」にて追加予算を行い、より充実した取組を支援した。
- ・事業終了後、本事業の取組を持続可能なものにするために一定の事業経費を計上し、支援する予定。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
観光・グローバル学習 探究学習(1年生)	—	—				4回	4回					3回
地域学習 探究学習(1年生)	—	—				1回	4回	1回				3回
観光・グローバル探究Ⅰ 探究学習(2年生)	—	—					3回	2回				1回
地域探究Ⅰ 探究学習(2年生)	—	—					4回					1回
科学総合探究Ⅰ 探究学習(2年生)	—	—				1回	5回	5回				1回
郷土理解 探究学習(2年生)							1回		2回	1回		
異文化理解 探究学習(3年生)							1回		1回	1回		
観光研究解 探究学習(3年生)			2回	2回			1回					
朝来市・神河町との協働	—	—			1回			1回		1回		1回
各種コンテスト・サミット等への参加	—	—									1回	
探究成果発表会 (中間発表を含む)	—	—	2回		2回		2回		1回		1回	
ゆめいくプロジェクト 授業担当者会	3回	1回	4回	2回	4回	4回	3回	3回		4回	2回	2回
コンソーシアム協議会					1回					1回		
運営指導委員会							1回				1回	
職員全体研修	1回									1回		

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- 地域人材の活用により、地域の歴史・文化・風習等を知り、鉾山町としての意識（「IKUNOプライド」）を持つ生徒の育成。

- ・ 2 学年の学校設定科目「郷土理解」において、井筒屋運営委員長：中井武四氏による生野の歴史・文化についての特別授業を井筒屋にて実施予定であったが、実施できなかった。
- b 地域の観光資源の活用の方策を地域住民と協働して考え、観光資源を活かした魅力あるまちづくりを企画・立案し、朝来市に提案。
  - ・ 8 月 27 日 2 年生探究学習中間発表会
  - ・ 8 月 28 日 1 年生探究学習中間発表会  
IKUNO 検定についてコンソーシアム団体に発表
  - ・ 10 月 29 日 2 年生探究学習成果発表会「ゆめいくトライアル」  
運営指導委員に発表
  - ・ 10 月 30 日 1 年生探究学習成果発表会「ゆめいくトライアル」
  - ・ 12 月 18 日 第 5 回ゆめいくプロジェクト発表会、オンラインによるプレゼンテーションにおいて、高校生が考える地域活性化の提案を行った。具体的には、朝来市在日外国人向けゴミ処理の仕方の動画等である。当日の生徒発表の動画を YouTube にて限定公開している。
  - ・ 2 月 9 日 第 2 回但馬地区高校生フォーラム（オンライン）
- ② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け  
以下の a～d の探究活動や授業の方法、カリキュラム、地域との協働体制、コンソーシアムの構築体制等を、「IKUNO モデル」として体系化し、普及・促進を図る。

#### 【1 学年】

##### a 「観光・グローバル学習」「地域学習」

<ねらい>

『日本遺産「播但貫く、銀の馬車道鉱石の道」を学ぶ』（文化庁）をとおして、地域の過去と現在を知ることにより IKUNO プライドの基礎を醸成する。歴史や文化の理解を軸に置いた IKUNO 検定を作成する過程で、フィールドワーク、情報収集、インタビュー、発表資料作成、発表方法といった基本的な研究手法を獲得し、協働的に探究する姿勢を身につける。また、「お金についての知識」、「テクノロジー×地域課題」をテーマとした外部講師の講義を受けることにより、「観光・グローバル探究 I II」、「地域探究 I II」、「総合科学探究 I II」へ向けての基礎作りを行う。

<目標>

- 1 銀の馬車道沿いにある地域資源を再発見し、発信する。
- 2 「IKUNO プライド」を醸成し、地域が抱えている課題に気づく。
- 3 地域活性化に必要な主体的に地域課題に向かい解決する力、お金の知識、テクノロジーの知識を身につける。

1 学年の学校設定科目「観光・グローバル学習」「地域学習」では、朝来市職員を特別講師として招き、生徒のフィールドワーク等をとおして、地域の魅力を学び、その成果を「IKUNO 検定」としてまとめ、「過去を知る」「現在を知る」をテーマとして発表した。あわせて、課題研究の手法、プレゼンテーションの基礎知識を学んだ。

また、「未来を知る」をテーマに、外部講師によるテクノロジー（AI、IoT）の特別授業を受け、最先端のテクノロジーに関する基礎知識を学ぶ予定であったが、今年度は実施できなかった。

##### b 「海外地域研究」

<ねらい>

学校が置かれている朝来市と海外でのどのような国とつながってきたかについて歴

史を通して学ぶ。またそのつながりの中で特に深くつながっているベトナムについて研究を深めていくことで、来年度のベトナム修学旅行で行うプログラムの一つである、現地での学校交流における共同研究のための準備を行う。

<目標>

- 1 朝来市と歴史的につながりのある外国についてその背景を知る。
- 2 地元のことを調べ、ベトナムと比較研究を行うことができる。
- 3 調べたことを海外向けに発信することができる。

1学年の総合的な探究の時間「海外地域研究」では、ベトナムについての調べ学習を行うとともに、プレゼンテーションの基礎知識を合わせて学んでいる。2学期には東南アジアの社会と文化が専門である福知山公立大学教授を招き、ベトナムについての基礎知識を学んだ。ベトナムと日本との比較研究も行い、2学年のベトナム修学旅行での訪問先の学生に比較研究の成果を発表する予定であったが、コロナ禍のため来年度のベトナム修学旅行は国内（沖縄）に変更予定である。

## 【2学年】

### a 「異文化理解」

<目標>

異文化に関心を持ち、積極的に他国の文化について調べることで、異文化に対する理解を深める。また、英語による言語活動を積極的に行うことで、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力の育成を図る。

修学旅行で訪問予定のベトナムについて、風土や文化についてまとめ、プレゼンテーションを行う予定であったが、コロナ禍で中止となった。オーストラリアに帰国したALTとスカイプを利用し、アボリジニーの歴史や言語・文化など様々なジャンルについて紹介してもらい、英語で活発に意見交換を行った。

### b 「郷土理解」

<目標>

生野銀山や竹田城跡等、朝来市の観光地でのフィールドワーク、生野町内のまち歩きなど、生野町およびその周辺について理解を深める。

生野銀山等の朝来市の観光地でのフィールドワークや元地域おこし協力隊員の指導によるまち歩きをとおして、郷土に対する理解を深めた。また、鉾山町生野のまちづくりに関わっている地域住民等から直接指導を受けることで、地域に対する関心を高めるとともに「IKUNOプライド」の醸成を行った。さらに、3学期の授業においては、日本遺産「銀の馬車道・鉾石の道」等の観光プランを作成中である。

### ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

令和2年10月にNPO法人「日本ハンザキ研究所」を中心に開催予定であった、「国際ハンザキシンポジウム&第17回日本オオサンショウウオの会・朝来大会」は来年度秋に延期となった。

今後、生物基礎の特別非常勤講師授業において、特別天然記念物「オオサンショウウオ」の学習を1学年全員に行い、そこで学ぶことをコミュニケーション英語Ⅰの授業で簡単な英語にまとめる予定である。

④ 類型ごとの趣旨に応じた取組について

朝来市総合政策課との協議により、生野の魅力を生徒が知ると同時に、地域住民に広報するために、「IKUNO検定」を作成し、成果発表会で披露した。

『地域づくりサミット in 但馬』（村岡高校主催）、『全国高校生マイプロジェクトアワード2020北近畿選考会』、『日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」高校生地域魅力発見ワークショップ&フォーラム』に生徒が参加し、日頃行っている探究活動の成果を発表する予定であったが、オンラインでの開催となった。2月9日には、『第2回但馬地区高校生フォーラム』をオンラインで開催した。本来なら但馬地区の高校生の探究活動を広く紹介するとともに、高校生目線での但馬の魅力を発信する予定であったが、今年度は本校独自で行い、同じ地域魅力化型の指定校である村岡高校がオンラインで参加した。

⑤ 成果の普及方法・実績について

8月28日 1年生探究学習中間発表会において、プレゼンテーションによる発表により、活動の成果をコンソーシアムの委員に発信した。

毎月、学校通信を発行し、活動内容を紹介している。地元中学校3年生全員、生野町内各区に配布し、広報している。また、本校ホームページでも行事ごとに活動内容を紹介している。

(3) 研究開発の実施体制について

① 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

授業担当者とカリキュラム開発等専門家で担当者会議「ゆめいくプロジェクト担当者会」を設置した。そこで、指定2年目は該当科目の年間計画、指導案、使用教材、教員用ガイドブック、生徒用ガイドブックの作成と来年度向けの修正を行った。授業担当者の意見をもとにカリキュラム開発等専門家が該当科目に必要なものを検討し、開発を行う体制を整えた。

最終年度は、これに加えて、評価方法、外部者との連携体制、外部者用ガイドブックも合わせて研究・作成し、指定後も協働活動が持続可能な組織を構築する。

② 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

IKUNOモデル推進委員会で具体的な指針を決定し、それに基づいて毎週の担当者会議「ゆめいくプロジェクト担当者会」で詳細を決定し、授業担当者が授業を行う。授業担当者の授業を行う上での問題点を担当者会議で共有し、カリキュラム開発等専門家はそれを基に年間計画や指導案等の助言を行う。また、本事業の成果発表会を全職員で運営した。

学校全体共有方法として、推進部長が中心となり、4月と1月に全職員による研修を行い、指定事業に対する学校全体の共通理解を図った。

IKUNOモデル推進委員会を中心に実施計画を作成し、校務運営委員会、職員会議で全職員に共通理解を図り、指定事業を推進している。

③ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

カリキュラム開発等専門家が担当者会議で授業担当者からの意見を聞くことや実際に授業に同行し、成果の検証・評価を通じ、計画・方法の改善策を助言した。それをIKUNOモデル推進委員会において、学校長を中心に確認し、不十分に思われる部分については、委員会としてどのように改善するかを協議し、改善する仕組みで事業を進めている。

④ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

第1回コンソーシアム I KUNO協議会の前に、委員が1年生の中間発表会（個人）を見学し、その内容について、今後の課題点を含め、コンソーシアム構成員から多くの指導・助言をいただいた。生徒が地域のことを知るきっかけづくりとなり、コンソーシアムと学校との距離が縮まった。その結果、フィールドワークへの協力がしやすくなり、お互い何ができるか意見交換もスムーズであった。地域の現状を知るための講義や教材提供をしていただいた。その中で、生徒たちがより深く知りたいと感じたことに対して再度、指導・助言を行っていただいた。その内容をもとに、I KUNO検定の問題を作成し、10月30日1年生探究授業中間審査会で披露した。

第2回コンソーシアム I KUNO協議会は、第5回ゆめいくプロジェクト発表会と同日に開催する予定であったが、コロナ禍で延期した。1月28日にオンラインで開催した。

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

運営指導委員会やコンソーシアム I KUNO協議会等の外部組織と連携しながら、内部組織である I KUNOモデル推進委員会及びゆめいくプロジェクト担当者会を中心に、絶えず検証を行い、PDCAサイクルに基づき改善を進めた。具体的には以下のとおりである。

### (1) 本構想において実現する成果目標（アウトカム）

#### ① 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着

a 地域をよくするために、地域における問題に関わりたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒の地域に対する主体性が養われたかどうかを測る）

2年目目標値－70% 2年目実績－63.0%（2020年度高校魅力化評価システムより）

昨年度より 0.2 ポイントアップ

b 多様な考え方の人と関わって多くのことを学びたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒のコミュニケーション能力、探究心が育成されたかを測る）

2年目目標値－70% 2年目実績－69.3%（2020年度高校魅力化評価システムより）

昨年度より 0.1 ポイントダウン

c 勉強したことを実際応用してみたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：学校での学びが生徒の実生活や地域と密接な関係にあるかを測る）

2年目目標値－70% 2年目実績 53.6%（2020年度高校魅力化評価システムより）

昨年度より 6.1 ポイントダウン

#### ② 高校卒業後の地元への定着状況

a 進学のために一度外に出るが、将来的には戻って今のふるさとに住み続けたいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒の地元への定着力を測る）

2年目目標値－50% 2年目実績－23.5%

b 高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合（目標設定の考え方：生徒のふるさとへの愛着を測る）

2年目目標値－70% 2年目実績－52.5%（2020年度高校魅力化評価システムより）

昨年度より 8.7 ポイントダウン

c 高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合（目標設定の考え方：いつくらいに帰郷したいかも聞き、生徒の地元就職への思いについて分析する）

2年目目標値－40% 2年目実績－28.4%（2020年度高校魅力化評価システムより）

昨年度より 15.5 ポイントダウン

### (2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

- ① 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況
- a 探究活動に充実感をもつ生徒の割合（目標設定の考え方：探究活動への生徒の取組を測る）  
 2年目目標値－80% 2年目実績－55.2%  
 昨年度より 5.0 ポイントダウン
- b 地域の抱える課題への解決策や観光に関しての自治体への提案状況（目標設定の考え方：探究活動の成果を見る）  
 2年目目標値－2回 2年目実績－4回  
 8月28日 1年生探究学習中間発表会 10月29日 2年生探究授業中間審査会  
 12月18日 第5回ゆめいくプロジェクト発表会（You tube 限定公開）  
 2月9日 第2回但馬地区高校生フォーラム
- ② 課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして
- a 「但馬地区高校生フォーラム」の開催（目標設定の考え方：成果発表の実施について測る）  
 2年目目標値－1回 2年目実績－2月9日実施
- ③ その他本構想における取組の具体的指標  
 地域活性化に関する公益性の高い国内の大会における参加者数（目標設定の考え方：生徒の探究活動の客観的な評価を測る）  
 2年目目標値－10人 2年目実績－12人  
 2月6日：全国高校生マイプロジェクトアワード2019 北近畿選考会に8人参加  
 3月21日：高校生による日本遺産の魅力発見事業（オンライン）に4人参加
- (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）
- ① 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして  
 学校への地域住民の派遣回数（年間）（目標設定の考え方：地域との協働の取組の進捗状況を測る）  
 2年目目標値－15回 2年目実績－7回（予定も含む）  
 オープン・ハイスクール（2回のうち1回実施），オープンスクール（2回とも中止）  
 第5回ゆめいくプロジェクト発表会（当日動画を後日配信）  
 但馬地区高校生フォーラム（当日動画を後日配信予定）  
 コンソーシアムIKUNO協議会（2回），IKUNOモデル運営指導委員会（2回）
- ② その他本構想における取組の具体的指標を基に「IKUNOモデル推進委員会」の実施回数（年間）（目標設定の考え方：地域・企業との連携の進捗状況を測る）  
 2年目目標値－9回 2年目実績－3回  
 今年度は全職員での取組推進のため，IKUNOモデル推進委員会ではなくゆめいくプロジェクト授業担当者会を毎週金曜日の3・4校時に実施している。
- (4) 評価と課題  
 地域をより良くするために地域の問題に関わりたい，将来自分の住んでいる地域に役立ちたいという地域貢献意識に関する生徒の割合は，1年目の目標値に近い数値である。  
 「IKUNOプライド」の醸成については，2年目も目標を達成したと考えられる。一方で，2年目は1年目の実績値よりは，地域に残りたい生徒の割合，探究活動に充実感を持つ生徒の割合はダウンした。3年目への課題としては，地元への定着力や探究活動に対する生徒の満足度向上のための取組があげられる。この点を踏まえて，外部との連携をとりながらカリキ



ュラム開発をさらに行っていく。

<添付資料>目標設定シート

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) アンケート等の結果からも探究活動に充実感を持つ生徒の割合が目標値とは大きくかけ離れている。また、探究活動が夢の実現に繋がっていないと回答した生徒が 35.4%となっている。コロナ感染症拡大防止により体験等の経験が減少していることや今年度の生徒の高校に対する満足度や生活全般の満足度の低下していることにも関連があると考えられる。今後いかにプラスに転じていくかが課題となっている。
- (2) 今年度、コンソーシアムと学校との関係性がより緊密となり、連携内容も改善されたので、この関係性を十分に活かし、フィールドワークの更なる充実を図りたい。コロナ禍であってもその方法を工夫する余地（オンライン、電話、FAX 等）がまだあると考える。コンソーシアムのメンバーや地域の人々との交流を通して、一人でも多くの生徒の地域貢献意識や探究心、コミュニケーション能力、そして自己肯定感を更に伸ばさせたい。
- (3) カリキュラム開発については、カリキュラム開発等専門家の支援をいただき、充実を図ることができている。次年度は最終年度であり、全職員が探究活動に関わるようになるため、令和4年度以降も、本校職員で自走ができ、発展的持続ができるようなカリキュラム開発を意識して行っていくことが不可欠である。
- (4) 生徒がこれまで以上に主体性をもって、楽しんで取り組めるような働きかけが必要である。そのために、テーマの設定や適切な準備期間を与えるとともに、生徒の発表の仕方等のレベルアップに対する仕掛けが必要である。
- (5) 発表会で、他校との交流を増やし、探究活動で得た学びを共有することで、自己実現のために必要な資質・能力を更に伸ばさせたい。

### 【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	T E L	078-341-3817
氏 名	堂阪 博文	F A X	078-362-4288
職 名	指導主事	e-mail	koukoukyouikuka@pref.hyogo.lg.jp